

ほぼたきHP版

大分大学教育学部

附属小学校

平成29年9月27日

9月22日23日は1泊2日で九重青少年の家に宿泊合宿に行ってきました。残念ながら天候の関係で安全を最優先させ登山は中止となり、予定を大幅に変更せざるをえませんでした。その分、子どもたちの良さや課題が多く見えた合宿でもありました。

良さとしてはなんと言っても学年をこえた仲の良さでしょうか。世の中に出れば、異年齢の方と接することの方が圧倒的に多いわけですから、子どもの頃から意図的に異学年と交流することは意義深いことだと思います。今から3、40年くらい前でしたら、当たり前のように近所の異学年集団・・・いわゆるガキ大将が率いる子どもたちのコミュニティの中で良いことも悪いことも学んできたわけですが、社会生活の変化とともに町から姿を消していきました。本校では大規模校では珍しく意図的に縦割り集団を形成してきましたが、九重でも自然と声を掛け合って遊んだり、助け合ったり姿が多く見られました。自然体な姿こそ大きな成果だと思います。

反面課題も見られました。テーマでもあった「考動」については、「あれ？いつもはもっと全体のことを考えて動いているのに・・・」という場面も見られました。また、学校では出来ている履き物そろえや挨拶も十分とは言えないことがありました。それは、言い換えれば私たち教職員の指導が十分ではなかったということです。指導の課題をもらった九重合宿という捉えで子どもたちとともに日々の生活を見直していきたいと思っています。

